



# 安川電機 (6506)

## 2010年3月期決算説明会：要約版 (2010年4月22日)

**取締役社長 津田 純嗣**

本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。

実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。

# 事業セグメント別売上高構成比

当社製品活用事例

## 情報

【主要製品】  
コンピュータ周辺機器、レーザー応用システム  
情報処理ソフト・サービス

## システムエンジニアリング: (S)

【主要製品】  
鉄鋼プラント用電機システム  
上下水道用電気計装システム  
新システム機器等



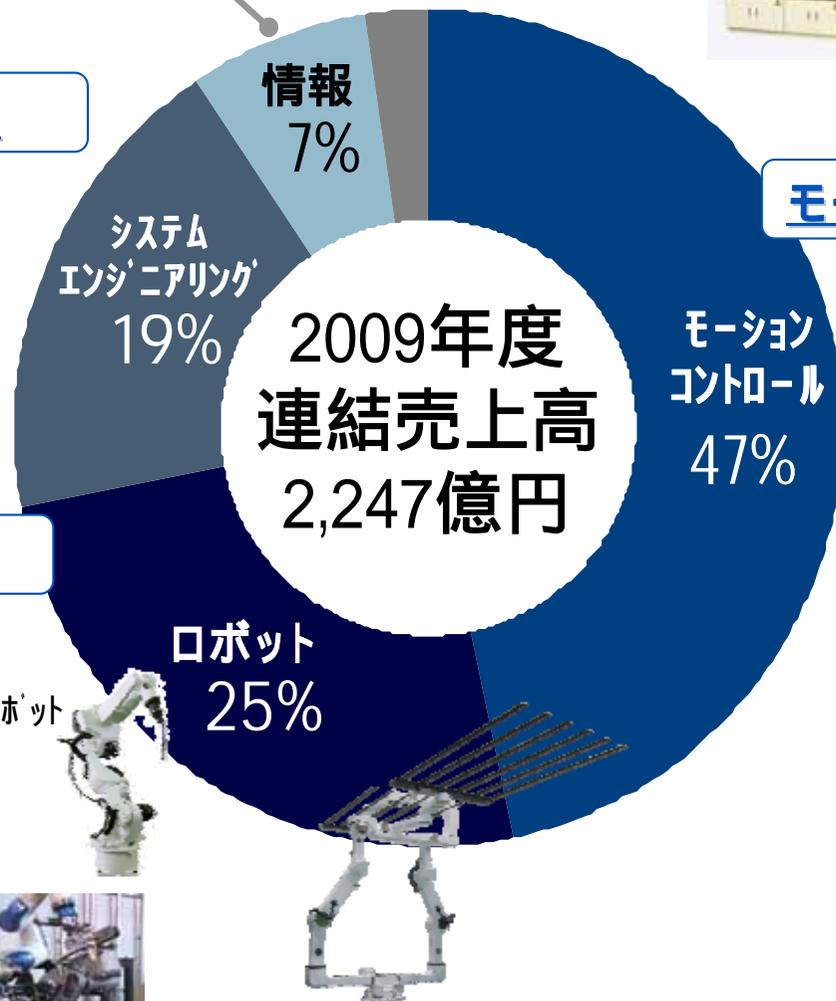
## ロボット: (R)

【主要製品】  
・産業用ロボット:  
アークスポット溶接・塗装ロボット、FPD搬送ロボット  
新世代ロボット  
・半導体製造装置用ロボット:  
半導体製造装置用クリーン・真空ロボット等

アーク溶接ロボット  
による自動車  
部品溶接



新世代ロボット  
によるロボット組立



【電子部品】  
チップマウント



【工作機械】  
タッピングマシン

## モーションコントロール: (M)

【主要製品】  
ACサーボモータ、コントローラ、リニアサーボ、インバータ等



当社製品活用事例

# 仕向先別売上高構成比

## アジア

【主要子会社】

- ・安川電機(上海)有限公司(中国)
- ・シンガポール安川電機(シンガポール)
- ・韓国安川電機(韓国)
- ・台湾安川開発科技股份有限公司(台湾)
- ・首鋼モトマン有限公司(中国)
- ・モトマンマザーソロボティクス(インド)

## 欧州

【主要子会社】

- ・欧州安川電機(ドイツ)
- ・モトマンロボティクスヨーロッパ(スウェーデン)
- ・モトマンロボテック(ドイツ)

## 米州

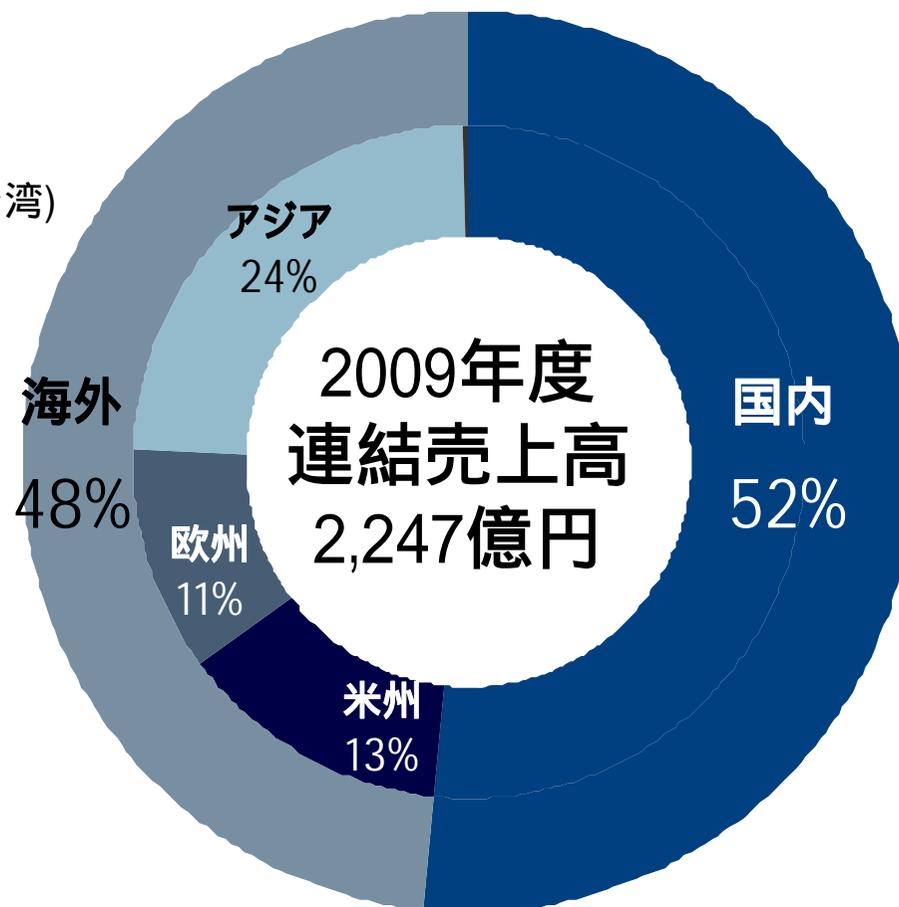
【主要子会社】

- ・米国安川電機(米国)
- ・モトマン(米国)

## 日本

【主要子会社】

- ・ワイ・イー・データ
- ・安川情報システム
- ・安川エンジニアリング
- ・安川コントロール
- ・安川モートル



# 2009年度連結決算のポイント

厳しい経営環境のなか、中国・アジアを中心とした  
需要回復を捉え、下期は黒字化を達成

	通期	上期	下期
売上高	2,247億円	983億円	1,263億円
営業利益	69億円	83億円	13億円
経常利益	60億円	80億円	20億円
当期純利益	57億円	62億円	5億円

(M) 中国・アジアを中心に需要が回復し、下期は黒字転換  
インバータは省エネ・インフラ関連が順調に回復。ACサーボは半導体、  
液晶が牽引、下期後半は電子部品および米国の回復も寄与

(R) 厳しい状況は続くが、中国での自動車関連投資および液晶投資の  
拡大により回復基調、半導体も下期以降水準は改善

(S) 鉄鋼向けを中心に堅調、前期比増益を達成

(情報) 情報関連設備投資の抑制が影響

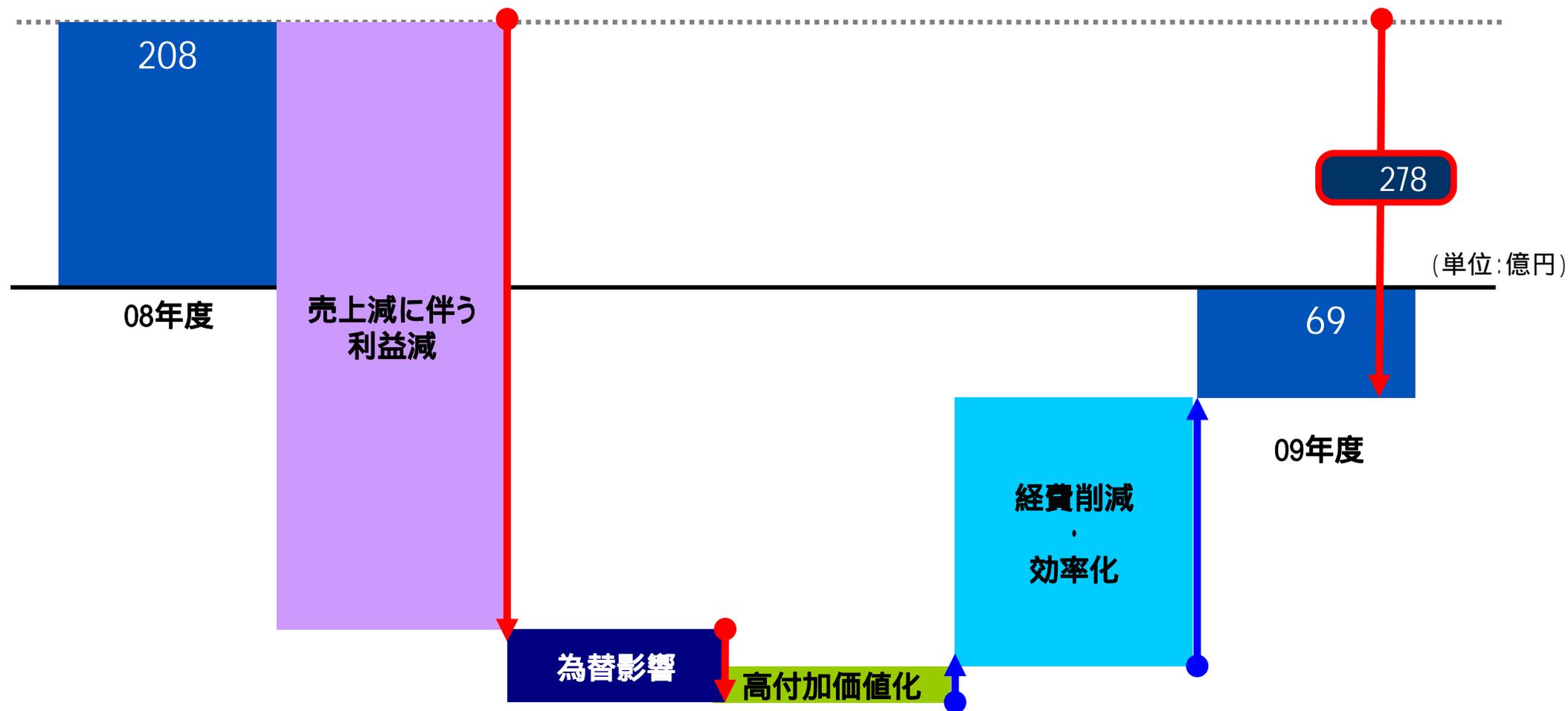
# 2009年度連結セグメント別業績

## 利益面では(S)が支える

(単位: 億円、%)

	09年度		08年度		前期比	
		利益率		利益率	増減額	増減率
売上高	2,247		3,502		1,255	35.8%
(M)	1,048		1,608		560	34.8%
(R)	570		1,141		570	50.0%
(S)	414		467		53	11.3%
(情報)	155		213		58	27.2%
営業利益	69	3.1%	208	5.9%	278	n.m.
(M)	31	3.0%	117	7.3%	149	n.m.
(R)	83	14.6%	32	2.8%	115	n.m.
(S)	54	13.2%	46	9.9%	+8	+18.1%
(情報)	9	6.0%	6	2.9%	16	n.m.
経常利益	60	2.7%	200	5.7%	261	n.m.
当期純利益	56	2.5%	68	2.0%	126	n.m.

# 営業利益増減要因分析(2008年度 2009年度)



# 2010年度の事業環境見通し

中国・アジアの急速な拡大は一服するが、需要は高水準で推移  
半導体・液晶関連投資は堅調、環境エネルギー関連の需要は拡大傾向

(注)09年度 10年度の動向

市場環境	半導体	→	設備投資は高水準で継続推移
	液晶	→	中国・アジアの設備投資需要で堅調
	自動車	→	中国は堅調。日米欧は生産回復で設備投資再開の動き
	鉄鋼	→	大口投資は一巡、環境関連投資は継続
	環境エネルギー	↗	省エネルギー、新エネルギーに関する需要は安定して拡大
地域動向	米州	→	景気回復により設備投資の回復基調が続く
	欧州	→	ボトムアウトから緩やかな回復へ
	中国・アジア	↗	急速な拡大路線は一服するものの、域内需要が強く高水準持続

# 2010年度連結業績見通しのポイント

経営環境の厳しさは続くが、中国を中心としたアジアシフトの加速、環境エネルギーの事業化を推進し、売上拡大、利益確保を図る

	通期	上期	下期
売上高	2,700億円	1,270億円	1,430億円
営業利益	80億円	10億円	70億円
経常利益	80億円	10億円	70億円
当期純利益	40億円	5億円	35億円

(M)インバータ:空調および中国・アジアが堅調に推移

ACサーボ:半導体・液晶・電子部品を中心に増加基調が続く

(R)自動車向けで投資が活発なアジアと、欧米の投資再開の動きにより改善方向。液晶・半導体向けは高水準が継続

(S)鉄鋼向けは一巡、省エネ関連投資への提案で売上・利益を確保

(情報)量の確保と効率化により黒字化を目指す

# 2010年度連結業績見通しのポイント

## 中国を中心としたアジアシフトの加速

- ・ACサーボモータの瀋陽工場を稼動(10年6月)  
中国工作機市場向け販売を推進
- ・上海インバータ工場の生産能力を拡大  
生産能力を倍増(30万台/年の生産体制へ)  
うち中国で需要の高い小型インバータは能力3倍に
- ・上海にロボット販売・事業推進機能を配置  
中国での販売・サービス体制を拡大・強化
- ・モーションコントロールのインド事業を加速



瀋陽工場完成予想図

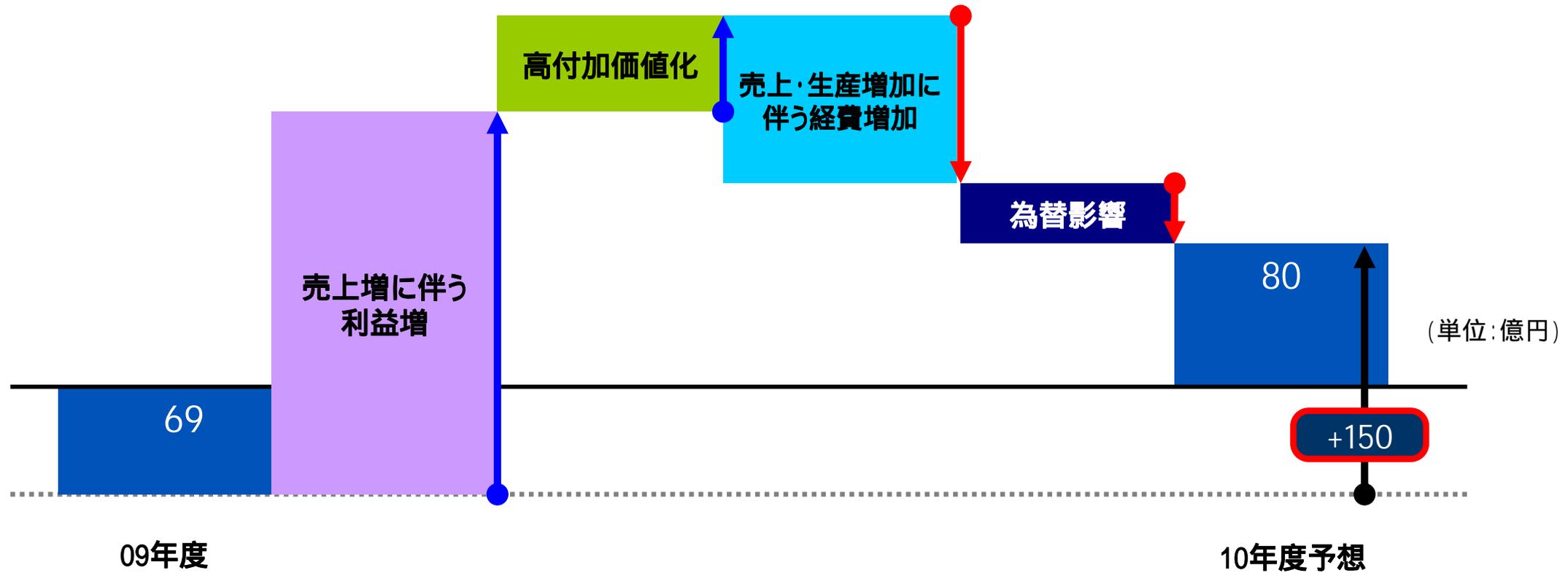
## 環境エネルギー分野の事業拡大

- ・技術開発本部に「電機駆動システム事業推進室」を新設
- ・インバータ事業部に「環境エネルギー機器事業統括部」を新設
- ・システムエンジニアリング事業部に「環境エネルギーシステム事業統括部」を新設

## 徹底的なコストダウンの継続

- ・海外調達等、即効性のあるコストダウンの強化
- ・効率的な経費運用の徹底

# 営業利益増減要因分析(2009年度 2010年度予想)



# リスク要因

## 為替相場の変動

急激な円高の進展など、為替相場の動向によっては、当社業績に悪影響を及ぼす可能性がある。

(ご参考) 2009年度為替実績 1ドル = 92.4円 1ユーロ = 130.8円  
2010年度為替前提 1ドル = 90円 1ユーロ = 120円

## 各国の景気対策の動向

景気回復を下支えしている各国の景気対策の動向により、市場環境が変化する可能性がある。